

特集 「学問の新しい領域」

人・技術・文化の連環をめざして

経営コミュニケーション学科 長谷川 徹也

一、学科設立の背景

さらなる情報化の進展や産業や経営のグローバル化により、我々を取り巻く状況は大きな変化を迎えています。こうした状況において、社会の発展には技術の力だけでは限界があります。技術を社会の中で生きたものとする人間の構想力、総合力、そして社会・文化的な視点を持ち、変化に対する感受性と

コミュニケーション能力をもった人材が必要とされています。

そこで、2004年4月に社会生活をおくる上で必要な技術・芸術・倫理などの幅広い知識をもち、異文化を理解して、人と人、人と機器、人と技術などとの仲を取り持つことができる、経営および情報に関する技術を習得した人材の育成を目的とした経営コミュニケーション学科が誕生しました。

二、経営コミュニケーション学科の内容

経営コミュニケーション学科では、企業の営利追求や管理技術だけではなく、生産者や生活者といった視点から学ぶことが必要であると考えました。そのため、従来の経営に関する実務教育とともに、異文化理解、販売や交渉において重要なコミュニケーション能力、人間工学をはじめとする技術や環境との共存技術などの分野も含めて総合的に学べるようにしました。

学科には学生定員100名に対して19名の教員がおり、外国籍の教員もいま

す。研究室の名称は多岐にわたり、経営学研究室、ビジネス教育研究室、社会政策研究室、アジア経済研究室、税法研究室、マーケティングサイエンス研究室、経営数理研究室、会計情報システム研究室、経営戦略研究室、産業人間工学研究室、生活人間工学研究室、環境計画研究室、健康科学研究室、比較教育文化研究室、日米社会制度研究室、日本近世文化研究室、美学美術史研究室、国際言語文化研究室、英語コミュニケーション研究室の一八研究室があります。

理論のみならず実践・実務志向にもとづき、変化の激しい経営環境に対応できるように、企業の事例やその時々の経営に関する話題を議論する場が必要と考えました。そのため、今年度も昨年と同様、一年次の学生を対象として実際の生産現場の見学会の実施、企業で活躍されている方の特別講義の開催などを計画し、二年次の学生には「事例研究Ⅰ・Ⅱ」を設けています。その他、飯塚市内の施設を利用してほぼ毎月開催している学科主催の公開講座にも学生の積極的な参加を呼びかけています。

学科内には人間工学の実験室が2箇所有り、ポリグラフ、アイマークレコーダなどを使って人の生理・心理機能の測定をすることができます。福祉機器、ペルトコンベヤ、騒音計や照度計などの環境測定機器、その他屋外で使用できる小型の心身の機能測定機器もあり、こうした機器を使って働きやすさ、健康、安全の面から職場や生活の改善などに取り組むことができるのも特徴の一つです。

三科目の履修について

経営コミュニケーション学の分野が広いいため、学生の授業開講科目は大きく「専門基礎科目」、「経営関連科目」、「財務関連科目」、「人間・環境関連科目」、「情報関連科目」、「文化関連科目」、「コミュニケーション関連科目」そして「総合科目」にまとめました。また、四年間の履修概要を学生に把握させるため、「経営コミュニケーション学入門Ⅰ・Ⅱ」を一年次に配置し、各教員の自己紹介をかねて各専門分野に対して興味を持たせる工夫をしました。また、学生の将来の目標と関連させてその内容をわかりやすく示し、かつ体系的に学べるように以下に示す3つのコースを設けています。

「経営プランニングコース」では、企業経営に精通し、マーケットのニーズに基づく販売戦略の立案やシステム提案、会計を中心とした業務システムの管理、そして技術サポートのできる能力の修得に重点をおき、起業も視野に入れていきます。

「人間・環境コース」では、人間工学を中心とし、人と技術や環境との適合性の観点からシステムの問題点を指摘でき、使いやすさや安全性の面から業務システムの改善等ができる能力の修得に重点をおいています。「コミュニケーション文化コース」は、異文化理解とコミュニケーション能力を強化し、海外と交流ができるビジネスマンとして企業経営一般に関する知識の修得に重点をおいたコースです。

経営コミュニケーション学では広い視野が要求されますが、一方で広く浅くなって、学ぶ目的が希薄になる危険性も孕んでいます。そのため、本学科では学生の卒業後の進路も視野に入れながら、特に会計学と英語教育に重点をおき、効率的に資格取得ができるようにしました。一年次では簿記に関する資格取得を視野に入れた授業科目を設置するとともに、通常の授業以外にも特別講座を開講して資格取得希望者に対応しています。昨年は、一年生の特別講座受講者全員が日商簿記3級に合格することができました。本年度からは販売士の資格取得講座も開講し、英語教育に関しても学生の要望に添った内容の少人数教育の充実をはかっています。

四、展望

経営コミュニケーション学科は他大学にはないユニークな学科です。産業理工学部において授業料も含めて最も文系色の強い学科ですが、他学科で開講されている科目を履修することも可能です。今後も様々な企画のもと、創造性に富む自立した学生を育てるとともに、研究面でも積極的に学外との連携を深めたいと考えています。